

○網野光議長

次に、森木真奈議員の市政に対する質問をお受けいたします。

15番 森木真奈議員。

〔森木真奈議員登壇〕

○森木真奈議員

15番森木真奈です。公教育における政治教育の充実について質問します。

まず質問の前に、私が委員を務めております、久喜市健康福祉推進委員会での会議の中で感じていることをお話します。その委員会の中で、私は若者の、市や地域への関心の低さや、地域の行事への参加者の少なさを、身をもって感じております。

私たちの住んでいる久喜市は、現在65歳以上の方が約4万人おり、人口の25パーセントを占めています。そんな少子高齢化の時代の中で、社会福祉を中心とした地域コミュニティの育成や、高齢者を支える街づくりなど、ますます若い世代の地域活動への参加が重要な課題になっていることは明らかであると言えます。働いてお忙しい方、なかなか地域のことが分からないという方など、様々な理由があることは承知しておりますが、実は久喜市には、地域の方との交流を深めるイベントや若い世代の方々にも参加しやすい行事がたくさんあります。

もちろん、そのような行事に参加することが苦手な方もいらっしゃると思います。そのような方は、まず挨拶から始めてみてください。近所の方々と挨拶を交わしあえる地域が少しずつでも増えていくと、それはとても良いことだと思います。そして、古くから久喜市に住んでいる皆さん、まずは私たちから温かい気持ちで様々なコミュニティや地区に、新たな人々を受け入れていきましょう。行事に参加したいけれど初めての場が怖いと思っている方は多くいらっしゃいます。伝統や慣習を守るために、身内や仲の良いグループでいることは居心地が良いと思いますが、もう少しお互いに心を開いて、たくさんの人々と関わっていきましょう。そして、それが私たち一人一人の住みよい街づくりの大きな一歩であると考えます。

繰り返しになりますが、本当に久喜市には楽しい行事がたくさんあります。広報くきや社会福祉協議会の広報紙、久喜市のホームページなどを時間があるときに開いてみてください。そして、みんなで久喜をもっと良い市に、地域をもっと良いコミュニティにしていきましょう。

それでは、ここから質問に入らせていただきます。

近年は20～30代の低い投票率が、若い世代の政治離れを物語っていますが、そんな最中、参議院本会議では18歳以上の選挙権を認める改正公職選挙法が可決され、若者のより積極的な市政への参加が求められていることは明らかであります。

そこで、私が今後の久喜市において必要だと考えていることは、若者の意識を変えるということです。

私は昨年4月に行われた久喜市議会議員選挙において、ある女性議員候補のお手伝いをさせていただきました。それまで私は、市と自分との関わりについて深く考える機会があまりなく、市議会議員の皆さんや、市に関わる職業の方々がどのように活動されていて、どのように市を支えてくださっているのか、また自らが地域コミュニティに参加することの重要性などをほとんど知りませんでした。

しかし、この機会を通して、自分が想像していたよりも遥かに、市や市議会が私たちに身近であることを、身をもって感じることができました。そして、今では広報紙を読むことや委員会に参加すること、市民まつりなどの行事に積極的に参加するなど、当たり前のことかもしれませんが、以前よりも市について考えることが多くなったと感じています。

この経験を通し、私は若者と市政がより活発に触れ合うことが、若者の意識を変えるという点において効果的であるように考えております。そして、このような経験をより若い公教育の場において提供することで、一人一人が幼いころから久喜市の一員であるという意識を持ち、市への関心が高まることで、若者の地域活動への参加の促進や市政の参加の向上に繋がるのではないかと考えております。

そこで、久喜市が現在どのような取り組みを行っているのかを疑問に思い、久喜市の公教育における政治教育の充実についてお尋ねします。

- (1) 久喜市では、「子ども議会」「いきいき女性議会」のほかに、子どもや若者と市政をつなぐイベントなどはありますか。
- (2) 今後、公教育の一環として郊外学習で市議会を見学するなど、公教育と市政をつなげる行事などを取り入れてはいかがでしょうか。
- (3) 現在、2年に1度のペースで行われている「子ども議会」と「いきいき女性議会」を毎年行うことは可能でしょうか。

最後に、幼いころの経験は、大人になった時の行動に大きく関わるものです。私は小学校6年生の時に、本町小学校代表として子ども議会に参加させていただきました。そして、その時の経験は、今の自分がまたここで、いきいき女性議会議員と

して質問をしているという行動に結びついていると考えています。

他の市では、このように子どもや若者が市政に関わる行事はほとんどありません。ですから、これらの行事は久喜市が誇っていける取り組みの一つであると考えています。市民まつりで、市議会議員さんと子どもたちのふれあいコーナーを作ってよいかもしれませんし、市役所を見学してよいかもしれません。これからの久喜市がより良い市になるよう、どうか小さなきっかけでもいいので、若い世代に市との関わりを認識してもらえる機会があればよいと考えています。

私の質問は以上です。

○網野光議長

森木真奈議員の質問に対する答弁を求めます。

市長。

〔田中暄二市長登壇〕

○田中暄二市長

それでは、森木真奈議員のご質問に対して、私からは（１）と（３）についてご答弁申し上げます。

はじめに（１）についてでございます。

子ども議会やいきいき女性議会につきましては、市政への理解を深めていただくことや、それぞれの視点から捉えたご意見、ご提案等を市政に反映させることなどを目的として実施をいたしております。

このほか、市民の皆様への市政参加の機会といたしましては、市内各地区で実施しております「市民懇談会」をはじめ、市内団体等を対象とした「出前市長室」、市長への手紙、市長へのEメール、市長へのFAX等による「市長への提言」などを実施しており、市民の生の声を生かした市政運営に努めております。

また、本市では、市民の皆様にも少しでも市政に関心を持っていただくため、これまでの広報紙やホームページのほか、ツイッターやフェイスブックを活用し、地元のお祭りやイベントなどの情報も絡めながら、市民の皆様にとって久喜市をより身近に感じていただけるような情報を発信しております。

ご質問者がおっしゃるように、政治に興味のない人々や若者にイベントなどを通じて市政へ参画していただくことは、大変重要なことですので、今後も

市民の皆様が気軽に市民参加できる環境を整えながら、広聴活動の充実に努めてまいります。

次に、(3)でございます。

子ども議会は、これからの久喜市を担う児童・生徒に市政や議会への理解を深めていただくとともに、市政に対する要望や意見を市政に反映することを目的といたしまして、小学5・6年生と中学生を対象に、1年おきに小・中学校の夏休み期間中であります8月に開催しております。

現在、久喜市内には、23の小学校、11の中学校、合計34の小・中学校がありますが、1回の開催に当たり、その半分の17校から各々1名の参加をお願いし、次回開催時には、別の17校から参加をしていただいております。また、市内の私立学校等にも通われている児童・生徒にも配慮し、2名を公募して実施しており、子ども議会では、環境問題をはじめ、商工業の活性化、防災・防犯、交通安全、まちづくりなど、小・中学生の鋭い視点での意見や提案をいただいております。

子ども議員の皆さんが社会全体で考えなければならない様々な問題に大きな関心を寄せていることが伺え、大変ビックリさせられ、ありがたく思っています。

今後におきましても、小中学生の皆さんに議会体験を通じて市政に関心を持っていただくとともに、市政に対する子どもたちの意見を聞く場として、子ども議会を大切にしていきたいと思います。

子ども議会を毎年開催することにつきましては、市、教育委員会及び学校の様々な行事や、教育委員会が1年おきに実施しております「中学生サミット」との調整等も必要でございますので、当面は現状どおり1年おきの開催とさせていただきたいと考えています。

次に、いきいき女性議会につきましては、女性の市政参加の機会の提供を図るとともに、女性の視点からとらえた意見や要望、提案などを市政に反映することを目的として、合併前の旧久喜市において平成13年から1年おきに開催をしているところでございます。

これまでの女性議会においていただきましたご意見やご質問につきましては、課題として受け止め、市政への反映に努めております。

そのような中、ここ数年の女性議会の参加状況について申し上げますと、定員25人に対しまして平成23年度は25人、平成25年度は22人、今年度は15人と、定員を超える状況には至っておらず、多くの女性にとりましては、まだまだ

関心が低く、市政や議会はご自分とは縁遠いと感じておられるのではないかと推察しております。

また、本市におきましては、「市民懇談会」や「出前市長室」、「生涯学習出前講座」など、市政参画のための様々な取り組みを行っております。

このようなことから、女性議会につきましても、これまでと同様に1年おきの開催とさせていただきたいと考えておりますけれども、政治分野における、女性や若者の参画拡大は、極めて重要なことですので、今後におきましても、でき得る限り、多くの皆様に参加していただけるような環境づくりや啓発活動の充実に努めてまいります。

○網野光議長

教育長。

〔柿沼光夫教育長登壇〕

○柿沼光夫教育長

市長に続き、私のほうから森木真奈議員のご質問に対して、(1)のうち教育委員会における取り組みについてと(2)についてご答弁を申し上げます。

教育委員会では、生涯学習に取り組んでいる市民の方が一堂に会して、テーマを設定し、それまでの学習効果を生かし、グループ討議や発表を行いながら、まちづくりを考える生涯学習研修大会「まなびすとフォーラム」を毎年実施しております。今年も6月13日に、鷲宮高等学校を会場に開催したところでございます。

今回は「コミュニティ豊かなまち 学校と共に歩む」をテーマに、グループ討議や発表を行いました。当日は、高校生、児童生徒の保護者、市民大学や高齢者大学の学生、教職員など幅広い分野からの参加をいただきました。

まなびすとフォーラムにおいて、高校生のような若い皆さんが様々な立場の方との意見交換を行うことは、市政に触れる場、市民参加の場として大変意義あるものと考えておりますので、今後においても、積極的に参加を呼びかけてまいります。

次に(2)でございます。

平成27年6月、選挙権年齢を18歳に引き下げる「公職選挙法の一部を改正する法律」が公布され、新たに18歳と19歳の者が選挙の投票や選挙運動を行えるようになります。

このことから、若者の政治や選挙への関心を高めること、選挙に関するルール等を学ぶことの必要性から、主権者教育が注目を集めています。主権者教育とは、「国や社会の政治や様々な問題を自分の問題として捉え、自ら考え、自ら判断し、行動していく主権者」を育成するための教育と考えます。

現在、小学校におきましては、我が国の政治や選挙の仕組みについて、中学校では政治に参加する意義等について、社会科の授業を中心に学習をしております。特に、小学校6年生では、国会などの議会政治や選挙の意味などについて学習しており、その際、市内全ての小学校が社会科見学において国会議事堂の見学を行っております。

また、中学校では、これらの理解や経験の上に、我が国の民主政治の仕組み、議会制民主主義の意義等について考え、良識ある主権者として主体的に政治に参加することの大切さについての学習を深めています。さらに、生徒会活動を通し、社会に参画する態度や自治的能力の育成を目指し生徒会役員選挙が行われ、選挙運動や立会演説会なども体験しており、その際、選挙管理委員会より投票台や投票箱を借用して実施している学校もございます。

地方自治は「民主主義の学校」という言葉に象徴されますように、主権者教育を推進するためには、身近にある市議会を見学することは有意義なものと考えますので、校長会等を通して各学校に情報提供してまいります。

今後とも、政治的中立にも配慮しながら、主権者として政治に参加する意義を自覚させることを通して、国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を培ってまいります。

○網野光議長

以上で、森木真奈議員の質問を打ち切ります。